

# 第 64 回 幹 事 会

平成 20 年 9 月 18 日

日 本 学 術 会 議

## 配布資料

資料1 議事次第

資料2 出席者一覧

資料3 非公開審議事項

資料5 第63回議事要旨

資料6 諸報告

資料7 審議事項

資料8 報告「21世紀ものづくり科学のあり方について」

資料9 報告「21世紀を豊かに生きるための「科学技術の智」」

資料10 報告「革新的国産治療機器開発に向けた研究開発機能拠点の形成」

参考1 21期幹事会への引継事項

参考2 今後の予定

## 第64回幹事会議事次第

日時 平成20年9月18日(木) 14:00～

## 議題

## I 非公開審議事項

## 1 委員会関係

提案1 分野別委員会における分科会委員の決定

提案2 福岡アジア賞受賞候補者の推薦

## II 前回幹事会以降の諸報告

## III 審議事項

## 1 提言等

提案4 報告「21世紀ものづくり科学のあり方について」

提案5 報告「21世紀を豊かに生きるための「科学技術の智」」

提案6 報告「革新的国産治療機器開発に向けた研究開発機能拠点の形成」

## 2 規則等

提案7 日本学術会議細則の一部改正(総会提案)

提案8 分野別委員会運営要綱の一部改正

提案9 日本学術会議の運営に関する内規の一部改正

提案10 国際委員会運営要綱の一部改正

## 3 団体の指定

提案11 日本学術会議協力学術研究団体の指定

## 4 国際会議関係

提案12 平成20年度代表派遣の追加(10～12月分)

提案13 第3回ウブントウRCE審査委員会への会員の派遣

## 5 シンポジウム等

提案14 第15回界面シンポジウム「ナノテクによる水と材料界面の新機能創製」

提案15 「公衆衛生の課題－格差社会・貧困と公衆衛生－」(シンポジウム)

提案16 「第16回かがわけん科学体験フェスティバル」(シンポジウム)

提案17 日本学術会議近畿地区会議シンポジウム

提案18 日本学術会議中国・四国地区会議公開学術講演会

提案19 「現代社会と生死観」(シンポジウム)

提案20 「脳とこころの発達」(シンポジウム)

## 6 後援

提案21 国内会議

## 7 その他

提案22 第20期における国際対応分科会活動のヒアリング結果

## IV その他

## 資料2

### 第64回幹事会（9月18日）出席者一覧

|        |        |
|--------|--------|
| 会長     | 金澤 一郎  |
| 副会長    | 鈴木 興太郎 |
| 副会長    | 土居 範久  |
| 第一部 部長 | 広渡 清吾  |
| 幹事     | 江原 由美子 |
| 第二部 部長 | 唐木 英明  |
| 副部長    | 北島 政樹  |
| 幹事     | 鷺谷 いづみ |
|        | (冒頭欠席) |
| 第三部 部長 | 海部 宣男  |
| 副部長    | 小林 敏雄  |
| 幹事     | 河野 長   |
| 幹事     | 大垣 眞一郎 |

---

事務局長 竹林 義久

## 諸 報 告

|     |                  |     |
|-----|------------------|-----|
| 第 1 | 前回幹事会以降の経過報告     | ページ |
| 1   | 審議付託等            | 1   |
| 第 2 | 各部・各委員会報告        |     |
| 1   | 部会の開催とその議題       | 1   |
| 2   | 幹事会附置委員会の開催とその議題 | 1   |
| 3   | 機能別委員会の開催とその議題   | 2   |
| 4   | 分野別委員会の開催とその議題   | 2   |
| 5   | 課題別委員会の開催とその議題   | 4   |
| 6   | 記録               | 4   |
| 7   | サイエンスカフェの開催      | 5   |
| 8   | 総合科学技術会議報告       | 5   |

## 第 1. 前回幹事会以降の経過報告

### 1 審議付託等

| 件 名                          | 申請者              | 審議付託先 |
|------------------------------|------------------|-------|
| 第 1 2 回東アジア看護学研究者フォーラムの後援    | 日本看護系大学協議<br>会会長 | 第二部   |
| 2008 年度第 2 回日本社会福祉学会フォーラムの後援 | 日本社会福祉学会長        | 第一部   |

### 2 賞受賞候補者の推薦

| 件 名       | 照会先 | 備 考 |
|-----------|-----|-----|
| Volvo 環境賞 | 各部  | 照会中 |

## 第 2. 各部・各委員会報告

### 1 部会の開催とその議題

なし

### 2 幹事会附置委員会の開催とその議題

- (1) 日本の展望委員会 安全とリスク分科会 (第 1 回) (9 月 9 日)  
①委員長、副委員長、幹事の選出 ②審議の進め方について ③その他
- (2) 日本の展望委員会 情報社会分科会 (第 1 回) (9 月 1 6 日)  
①役員の選出 ②今後の活動内容について ③その他
- (3) 日本の展望委員会 基礎科学の長期展望分科会 (第 1 回) (9 月 1 6 日)  
①委員長、副委員長及び幹事の選出 ②検討事項について  
③今後の進め方について ④その他
- (4) 日本の展望委員会 理学・工学作業分科会 (第 1 回) (9 月 1 7 日)  
①委員長、副委員長及び幹事の選出 ②検討事項について  
③今後の進め方について ④その他
- (5) 日本の展望委員会 (第 2 回) (9 月 1 8 日)  
①各分科会からの作業報告 ②今後の進め方 ③その他

### 3 機能別委員会の開催とその議題

## 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2008 持続可能な福祉を求めて

International Conference on Science and Technology for Sustainability 2008  
- In Search of Sustainable Well-Being -

### 結果概要

平成 20 年 9 月 16 日  
日本学術会議事務局

1. 日程 9 月 12 日（金）～13 日（土）
2. 場所 東京ステーションコンファレンス（東京都千代田区）
3. 主催 日本学術会議（S C J）
4. 参加者人数 2 日間でのべ約 200 人  
うち講演者 15 人（海外 7 人（6 カ国（5 カ国 1 機関）））

#### 5. 概要

日本学術会議が 5 年前から毎年主催している「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」が、今年は「持続可能な福祉を求めて」をテーマに 9 月 12 日～13 日の 2 日間にわたって東京ステーションコンファレンスで開催され、のべ約 200 人が参加しました。

本会議は、カリフォルニア大学リバーサイド校の Prasanta Pattanaik 名誉教授及び国際連合大学高等研究所の A. H. ザクリ所長の基調講演に加えて、3 つの課題ごとのセッション（地球生態系と人間の福祉、社会的共通資本と福祉、福祉構想の検討－持続可能性の見地から）において活発な議論が行われ、会議は盛況のうちに終了しました。

### 4 分野別委員会の開催とその議題

#### 第一部担当

（1）地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 I H D P 分科会

(第12回) (9月5日)

- ①日本学術会議IHDP分科会後援のワークショップ  
(6月28日、千葉商科大学で開催)の報告・・・熊田
- ②今期の活動報告・・・山本 ③次年度の活動・・・全員発言 ④その他

(2) 心理学・教育学委員会 心理学と社会科学分科会 (第2回) (9月6日)

- ①今後の分科会の活動について ②その他

(3) 哲学委員会 哲学・倫理・宗教教育分科会 (第6回) (9月15日)

- ①本日のシンポジウムまとめ ②その他

## 第二部担当

(1) 生産農学委員会 水産学分科会 (第6回) (9月5日)

- ①平成20年度の分科会活動報告書について
- ②「日本の展望委員会」「水・食料と持続可能な社会委員会」へのかかわり方について
- ③第21期水産学分科会への申し渡し事項について
- ④水産学関連学協会の連合支援について
- ⑤今後の活動 (シンポジウム開催など)
- ⑥その他

(2) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 生態科学分科会  
(第8回) (9月9日)

- ①学術会議の状況報告 ②第20期の活動の総括
- ③第21期への申し渡し事項の作成
- ④大学教育の分野別質保証の在り方に関する事項の検討 ⑤その他

(3) 健康・生活科学委員会 生活科学分科会 (第15回) (9月11日)

- ①7月5日シンポジウムの報告 ②提言「食生活の教育」の報告
- ③生活科学系コンソーシアムについて ④第20期生活科学分科会活動の総括
- ⑤第21期への引き継ぎ事項 ⑥その他

## 第三部担当

(1) 地球惑星科学委員会 IGU分科会 (第7回) (9月5日)

- ①国際地理学会議 (IGC Tunis 2008) 報告
- ②第21期IGU分科会とIGU国内委員会について
- ③2013年IGU京都地域会議の準備について



- ④ I G U活動の活性化について ⑤災害に関する7学会の連携について
- ⑤ I G U活動の活性化について ⑥その他

(2) 地球惑星科学委員会 I U G S分科会 (第5回) (9月6日)

- ① I G C-I U G Sの報告 ②今後の活動報告のまとめ
- ③来期への引き継ぎ事項 ④その他

(3) 化学委員会 分析化学分科会 (第5回) (9月8日)

- ① 10年後の化学ビジョン 分析化学分科会のビジョンの作成
- 1) 今後取り組むべき重要課題
- 2) 人材育成、特にアジア地区における人材育成
- 3) 分析化学の地位向上の施策
- 4) その他

(4) 数理科学委員会 数学教育分科会 (第7回) (9月8日)

- ①次期への引き継ぎ事項 ②「大学教育の分野別質保証」検討WGの設置
- ③E A R C O M E 5の開催について ④その他

(5) 土木工学・建築学委員会 建設と社会分科会 (第13回) (9月11日)

- ①今期の活動の総括 ②来期の体制・活動内容について ③その他

(6) 総合工学委員会 巨大複雑系社会経済システムの創成力を考える分科会  
(第8回) (9月16日)

- ①シンポジウムについて ②その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 (第1回) (9月12日)

- ①委員長、副委員長及び幹事の選出について ②今後の進め方について
- ③その他

(2) 地球温暖化等、人間活動に起因する地球環境問題に関する検討委員会  
拡大役員会 (第3回) (9月16日)

- ①21期の委員会の進め方について ②その他

6 記録

第二部関係

| 文書番号                        |       |     |  | 委員会等名                      | 標題                                                      |
|-----------------------------|-------|-----|--|----------------------------|---------------------------------------------------------|
| 作成日                         | 委員会No | 受付N |  |                            |                                                         |
| SCJ第20期-200900-20470200-003 |       |     |  | 健康・生活科学委員会<br>健康・スポーツ科学分科会 | 健康・スポーツ科学関連分野の学術研究団体における男女共同参画に関する調査結果                  |
| SCJ第20期-200900-20470500-004 |       |     |  | 健康・生活科学委員会<br>子どもの健康分科会    | 現代社会における子どもの健康生活の擁護と推進に関する課題と方策ー地域・学校におけるヘルスプロモーションの推進ー |

### 第三部関係

| 文書番号                        |       |     |  | 委員会等名                                       | 標題                                 |
|-----------------------------|-------|-----|--|---------------------------------------------|------------------------------------|
| 作成日                         | 委員会No | 受付N |  |                                             |                                    |
| SCJ第20期-200904-20530800-011 |       |     |  | 情報学委員会ウェブ・メディア社会基盤分科会                       | 我が国におけるウェブアーカイブ構築の意義および諸課題         |
| SCJ第20期-200904-20520100-012 |       |     |  | 地球惑星科学委員会 国際対応分科会                           | 地球惑星科学における国際対応                     |
| SCJ第20期-200904-20520200-013 |       |     |  | 地球惑星科学委員会 地球・惑星圏分科会                         | 地球惑星科学の現状と課題                       |
| SCJ第20期-200908-20551100-014 |       |     |  | 総合工学委員会 エネルギーと科学技術分科会                       | エネルギー諸問題における科学技術の役割ー現状と課題ー         |
| SCJ第20期-200908-20551300-015 |       |     |  | 総合工学委員会・機械工学委員会合同 エ工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 | 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会審議記録       |
| SCJ第20期-200909-20510400-016 |       |     |  | 物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会                     | 基礎物理学の展望<br>ー素粒子原子核研究の立場からー        |
| SCJ第20期-200910-20600104-017 |       |     |  | 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同IGBP・WCRP合同分科会IGAC小委員会    | 今後の日本の大気化学研究 IGAC小委員会の提言           |
| SCJ第20期-200911-20560500-018 |       |     |  | 機械工学委員会ロボット学分科会                             | ロボット学のありかた                         |
| SCJ第20期-200915-20520500-019 |       |     |  | 地球惑星科学委員会 社会貢献分科会                           | 総合的基礎教育の確立への道<br>ー大学進学基礎学力認定試験の創設ー |

### 7 サイエンスカフェの開催

(1) 9月6日(土) 14:00～15:30

場 所: 愛知芸術文化センター10階 レストラン「ウルフギャング・バック」

テーマ: 宇宙を満たす暗黒エネルギーと宇宙の未来

講 師: 佐藤 勝彦

(東京大学大学院理学系研究科教授 日本学術会議第三部会員)

### 8 総合科学技術会議報告

#### 1. 本会議

なし

## 2. 専門調査会

○評価専門調査会（第75回）

9月9日

- (1) 平成20年度における「国家的に重要な研究開発の事前評価」について
- (2) 「国家的に重要な研究開発の事前評価」のフォローアップについて
- (3) 大綱的指針の改定について（報告）
- (4) その他

## 3. 総合科学技術会議有識者議員会合

- |         |       |
|---------|-------|
| ・ 9月 4日 | *会長欠席 |
| ・ 9月11日 | *会長欠席 |
| ・ 9月18日 | *未定   |

## 審 議 事 項

|      |                                   |      |
|------|-----------------------------------|------|
| 1    | 提言等                               |      |
| 提案4  | 報告「21世紀ものづくり科学のあり方について」           | 1    |
| 提案5  | 報告「21世紀を豊かに生きるための「科学技術の智」」        | 2    |
| 提案6  | 報告「革新的国産治療機器開発に向けた研究開発機能拠点の形成」    | 3    |
| 2    | 規則等                               |      |
| 提案7  | 日本学術会議細則の一部改正(総会提案)               | 4    |
| 提案8  | 分野別委員会運営要綱の一部改正                   | 6    |
| 提案9  | 日本学術会議の運営に関する内規の一部改正              | 12   |
| 提案10 | 国際委員会運営要綱の一部改正                    | 14   |
| 3    | 団体の指定                             |      |
| 提案11 | 日本学術会議協力学術研究団体の指定                 | 19   |
| 4    | 国際会議関係                            |      |
| 提案12 | 平成20年度代表派遣の追加(10～12月分)            | 20   |
| 提案13 | 第3回ウブントウRCE審査委員会への会員の派遣           | 22   |
| 5    | シンポジウム等                           |      |
| 提案14 | 第15回界面シンポジウム「ナノテクによる水と材料界面の新機能創製」 | 24   |
| 提案15 | 「公衆衛生の課題－格差社会・貧困と公衆衛生－」(シンポジウム)   | 26   |
| 提案16 | 「第16回かがわけん科学体験フェスティバル」(シンポジウム)    | 28   |
| 提案17 | 日本学術会議近畿地区会議シンポジウム                | 29   |
| 提案18 | 日本学術会議中国・四国地区会議公開学術講演会            | 30   |
| 提案19 | 「現代社会と生死観」(シンポジウム)                | 32   |
| 提案20 | 「脳とこころの発達」(シンポジウム)                | 34   |
| 6    | 後援                                |      |
| 提案21 | 国内会議                              | 36   |
| 7    | その他                               |      |
| 提案22 | 第20期における国際対応分科会活動のヒアリング結果         | (別紙) |

|     |     |
|-----|-----|
| 4   |     |
| 幹事会 | 6 4 |

## 提 案

## 報 告

### 「21 世紀ものづくり科学のあり方について」

1. 提案者 機械工学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 機械工学委員会生産科学分科会における報告を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

## 記

日本学術会議会則第二条第四号の

「報告」として取り扱うこと

|     |     |
|-----|-----|
| 5   |     |
| 幹事会 | 6 4 |

提 案

報 告

「21 世紀を豊かに生きるための「科学技術の智」」

1. 提案者 科学と社会委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 科学と社会委員会科学力増進分科会における報告を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の

「報告」として取り扱うこと

|     |     |
|-----|-----|
| 6   |     |
| 幹事会 | 6 4 |

## 提 案

報告 革新的国産治療機器開発に向けた研究開発機能拠点の形成

1. 提案者 臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 臨床医学委員会 循環器分科会における報告を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

## 記

日本学術会議会則第二条第四号の「報告」として取り扱うこと

|     |     |
|-----|-----|
| 7   |     |
| 幹事会 | 6 4 |

## 提 案（総会）

### 日本学術会議細則の一部改正について

1. 提 案 者    農学基礎委員会委員長  
生産農学委員会委員長
2. 議 案    標記について、別紙案のとおり決定すること。
3. 提案理由    委員会の名称の変更に伴い、細則の一部を改正する必要があるため。



日本学術会議細則（平成17年10月4日日本学術会議第146回総会決定）の一部を次のように改正する。次表により、改正前欄の掲げる規定をこれに対応する改正後の欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

| 改 正 後        |         |         | 改 正 前        |         |      |
|--------------|---------|---------|--------------|---------|------|
| 別表第3（第10条関係） |         |         | 別表第3（第10条関係） |         |      |
| 委員会名         | 委員会名    | 委員会名    | 委員会名         | 委員会名    | 委員会名 |
| (略)          | (略)     | (略)     | (略)          | (略)     | (略)  |
|              | 農学委員会   | 農学基礎委員会 |              | 農学基礎委員会 |      |
|              | 食料科学委員会 | 生産農学委員会 |              | 生産農学委員会 |      |
|              | (略)     | (略)     |              | (略)     |      |

附 則（平成20年10月1日日本学術会議第154回総会決定）

この決定は、決定の日から施行する。

|     |    |
|-----|----|
| 8   |    |
| 幹事会 | 64 |

## 提 案

### 分野別委員会運営要綱の一部改正について

#### 1. 提 案 者 議案（1）について

農学基礎委員会委員長、生産農学委員会委員長

#### 議案（2）について

言語・文学委員会委員長、哲学委員会委員長、心理学・教育学委員会委員長、社会学委員会委員長、史学委員会委員長、地域研究委員会委員長、法学委員会委員長、政治学委員会委員長、経済学委員会委員長、経営学委員会委員長、農学基礎委員会委員長

#### 2. 議 案 （1）分野別委員会運営要綱（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）中、「農学基礎委員会」を「農学委員会」に、「生産農学委員会」を「食料科学委員会」に改めること。

（2）言語・文学委員会、哲学委員会、心理学・教育学委員会、社会学委員会、史学委員会、地域研究委員会、法学委員会、政治学委員会、経済学委員会、経営学委員会、農学基礎委員会の下に分科会を設置すること。

#### 3. 提案理由 委員会の名称の変更、分科会の設置に伴い、運営要綱を一部改正する必要があるため。

| 分野別委員会<br>(略)  | 分科会等<br>(略)                                                                                                                     | 調査審議事項<br>(略)                                                        | 構成<br>(略)              | 備考<br>(略) |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|------------------------|-----------|
| 言語・文学委員会       | 言語・文学委員会・<br>哲学委員会・心理<br>学・教育学委員会・<br>社会学委員会・史学<br>委員会・地域研究委<br>員会・法学委員会・<br>政治学委員会・経済<br>学委員会・経営学委<br>員会合同AASSREC・<br>IFSS0分科会 | アジア社会科学研究協<br>議会連名(AASSREC)及<br>び国際社会科学団体連<br>名(IFSS0)への対応に<br>関すること | 20名以内の会<br>員及び連携会<br>員 |           |
| 哲学委員会          | 言語・文学委員会・<br>哲学委員会・心理<br>学・教育学委員会・<br>社会学委員会・史学<br>委員会・地域研究委<br>員会・法学委員会・<br>政治学委員会・経済<br>学委員会・経営学委<br>員会合同AASSREC・<br>IFSS0分科会 | 言語・文学委員会に記<br>載                                                      | 言語・文学委<br>員会に記載        |           |
| 心理学・教育学<br>委員会 | 言語・文学委員会・<br>哲学委員会・心理<br>学・教育学委員会・<br>社会学委員会・史学<br>委員会・地域研究委<br>員会・法学委員会・<br>政治学委員会・経済<br>学委員会・経営学委<br>員会合同AASSREC・<br>IFSS0分科会 | 言語・文学委員会に記<br>載                                                      | 言語・文学委<br>員会に記載        |           |
| 社会学委員会         | 言語・文学委員会・<br>哲学委員会・心理<br>学・教育学委員会・<br>社会学委員会・史学<br>委員会・地域研究委<br>員会・法学委員会・<br>政治学委員会・経済<br>学委員会・経営学委<br>員会合同AASSREC・<br>IFSS0分科会 | 言語・文学委員会に記<br>載                                                      | 言語・文学委<br>員会に記載        |           |

| 分野別委員会<br>(略)  | 分科会等<br>(略) | 調査審議事項<br>(略) | 構成<br>(略) | 備考<br>(略) |
|----------------|-------------|---------------|-----------|-----------|
| 言語・文学委員<br>会   |             |               |           |           |
| 哲学委員会          |             |               |           |           |
| 心理学・教育学<br>委員会 |             |               |           |           |
| 社会学委員会         |             |               |           |           |

|         |                                                                                                                      |                 |                 |  |         |  |  |  |  |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|-----------------|--|---------|--|--|--|--|
| 史学委員会   | 言語・文学委員会・<br>哲学委員会・心理<br>学・教育学委員会・史学<br>社会学会・史学<br>委員会・地域研究委<br>員会・法学委員会・経済<br>学委員会・経営学委<br>員会合同AASSREC・<br>IFSSO分科会 | 言語・文学委員会に記<br>載 | 言語・文学委<br>員会に記載 |  | 史学委員会   |  |  |  |  |
| 地域研究委員会 | 言語・文学委員会・<br>哲学委員会・心理<br>学・教育学委員会・史学<br>社会学会・史学<br>委員会・地域研究委<br>員会・法学委員会・経済<br>学委員会・経営学委<br>員会合同AASSREC・<br>IFSSO分科会 | 言語・文学委員会に記<br>載 | 言語・文学委<br>員会に記載 |  | 地域研究委員会 |  |  |  |  |
| 法学委員会   | 言語・文学委員会・<br>哲学委員会・心理<br>学・教育学委員会・史学<br>社会学会・史学<br>委員会・地域研究委<br>員会・法学委員会・経済<br>学委員会・経営学委<br>員会合同AASSREC・<br>IFSSO分科会 | 言語・文学委員会に記<br>載 | 言語・文学委<br>員会に記載 |  | 法学委員会   |  |  |  |  |
| 政治学委員会  | 言語・文学委員会・<br>哲学委員会・心理<br>学・教育学委員会・史学<br>社会学会・史学<br>委員会・地域研究委<br>員会・法学委員会・経済<br>学委員会・経営学委<br>員会合同AASSREC・<br>IFSSO分科会 | 言語・文学委員会に記<br>載 | 言語・文学委<br>員会に記載 |  | 政治学委員会  |  |  |  |  |
| 経済学委員会  | 言語・文学委員会・<br>哲学委員会・心理<br>学・教育学委員会・史学<br>社会学会・史学<br>委員会・地域研究委<br>員会・法学委員会・経済<br>学委員会・経営学委<br>員会合同AASSREC・<br>IFSSO分科会 | 言語・文学委員会に記<br>載 | 言語・文学委<br>員会に記載 |  | 経済学委員会  |  |  |  |  |

|         |                                                                                             |                           |                |         |     |     |     |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|----------------|---------|-----|-----|-----|
| 経営学委員会  | 言語・文学委員会・哲学委員会・心理学・教育学委員会・社会学委員会・史学委員会・地域研究委員会・法学委員会・政治学委員会・経済学委員会・経営学委員会合同AASSREC・IFSSO分科会 | 言語・文学委員会に記載               | 言語・文学委員会に記載    | 経営学委員会  |     |     |     |
| 農学委員会   | 農学委員会PSA分科会                                                                                 | 太平洋洋学術協会 (PSA) への対応に関すること | 15名以内の会員及び連携会員 | 農学基礎委員会 |     |     |     |
| 食料科学委員会 | (略)                                                                                         | (略)                       | (略)            | 生産農学委員会 | (略) | (略) | (略) |

附則

この決定は、決定の日から施行する。ただし農学委員会及び食料科学委員会の改正の施行については日本学術会議細則（平成20年10月 日本学術会議第154回総会決定）の決定の日とする。

言語・文学委員会・哲学委員会・心理学・教育学委員会・社会学委員会・史学委員会・地域研究委員会・法学委員会・政治学委員会・経済学委員会・経営学委員会合同 AASSREC・IFSSO 分科会の設置について

分科会等名：言語・文学委員会・哲学委員会・心理学・教育学委員会・社会学委員会・史学委員会・地域研究委員会・法学委員会・政治学委員会・経済学委員会・経営学委員会合同 AASSREC・IFSSO 分科会

|   |                                     |                                                                            |
|---|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 所属委員会名<br>(複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。) | ○言語・文学委員会、哲学委員会、心理学・教育学委員会、社会学委員会、史学委員会、地域研究委員会、法学委員会、政治学委員会、経済学委員会、経営学委員会 |
| 2 | 委員の構成                               | 20名以内の会員及び連携会員                                                             |
| 3 | 設置目的                                | アジア社会科学研究協議会連名 (AASSREC) 及び国際社会科学団体連名 (IFSSO) に対応するため                      |
| 4 | 審議事項                                | アジア社会科学研究協議会連名 (AASSREC) 及び国際社会科学団体連名 (IFSSO) への対応に関すること                   |
| 5 | 設置期間                                | 時限設置<br><div>常設</div>                                                      |
| 6 | 備考                                  |                                                                            |

農学委員会 PSA 分科会の設置について

分科会等名：農学委員会 PSA 分科会

|   |                                     |                                        |
|---|-------------------------------------|----------------------------------------|
| 1 | 所属委員会名<br>(複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。) | 農学委員会                                  |
| 2 | 委員の構成                               | 15名以内の会員及び連携会員                         |
| 3 | 設置目的                                | 太平洋学術協会 (PSA) に対応するため                  |
| 4 | 審議事項                                | 太平洋学術協会 (PSA) への対応に関すること               |
| 5 | 設置期間                                | 時限設置                                   |
|   |                                     | <input checked="" type="checkbox"/> 常設 |
| 6 | 備考                                  |                                        |

|     |    |
|-----|----|
| 9   |    |
| 幹事会 | 64 |

## 提 案

### 日本学術会議の運営に関する内規の一部を改正する決定案

1 提 案 者      会長

2 議 案      標記について、別紙案のとおり決定すること。

3 提案理由

- (1) 機能別委員会の委員構成について規定するため
- (2) 定足数算出の基礎数から除外する者の要件について規定するため。

(参考)

● 日本学術会議法（抄）

第24条 総会は、会員の二分の一以上の出席がなければ、これを開くことができない。

2 総会の議決は、出席会員の多数決による。

3 部会及び連合部会の会議については、前二項の規定を準用する。

● 日本学術会議会則（抄）

第26条 幹事会の会議については、法第24条第一項及び第二項並びに第18条及び第22条の規定を準用する。

第31条 委員会の会議については、法第24条第1項及び第2項並びに第18条（第1項及び第5項を除く。）及び第22条の規定を準用する。

● 日本学術会議の運営に関する内規（抄）

第20条 分科会等の会議については、法第24条第1項及び第2項並びに会則第18条（第1項及び第5項を除く。）及び第22条の規定を準用する。



日本学術会議の運営に関する内規（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。  
次の表により、改正前欄に掲げる規定をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

| 改正後                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 改正前                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>第5章 委員会</b><br/>(委員会の委員)</p> <p>第10条 委員会の委員は、会員又は連携会員であることを要する。<u>ただし、分野別委員会の委員長は、会員でなければならない。</u></p> <p><b>第6章 会議</b><br/>(定足数)</p> <p>第21条 法第24条第3項並びに会則第26条及び第31条並びに前条において準用する法第24条第1項の規定の適用については、<u>海外に居所を有し、現に海外に在る者</u>、<u>出張者</u>、<u>災害</u>、<u>不測の事故又は健康上の理由で出席できない者</u>を、構成員の四分の一を上限として除外する。</p> | <p><b>第5章 委員会</b><br/>(委員会の委員)</p> <p>第10条 委員会の委員は、会員又は連携会員であることを要する。<u>ただし、機能別委員会の委員及び分野別委員会の委員長は、会員でなければならない。</u></p> <p><b>第6章 会議</b><br/>(定足数)</p> <p>第21条 法第24条第3項並びに会則第26条及び第31条並びに前条において準用する法第24条第1項の規定の適用については、<u>海外に居所を有し、現に海外に在る者</u>、<u>公務出張者</u>、<u>災害又は不測の事故で出席できない者及び入院中の者</u>を、構成員の四分の一を上限として除外する。<u>この場合の公務出張者とは、その職務に関連して会長から出張命令を受けた者又は所屬機関等の長から一週間以上の出張命令を受けた者をいい、除外する期間は、当該出張命令を受けた期間に限る。</u></p> |

# 附 則

この決定は、平成20年10月1日から適用する。

|     |     |
|-----|-----|
| 1 0 |     |
| 幹事会 | 6 4 |

## 提 案

国際委員会運営要綱の一部を改正する決定案について

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、別紙案のとおり決定すること。
- 3 提案理由 加入国際学術団体の運営及び研究等の連絡のため、国際委員会運営要綱別表1について、所要の改正を行う。

国際委員会運営要綱（平成17年10月4日 日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

| 改 正 後                  |                                                                                   |                            |                                                                                                                              | 改 正 前            |                                                                          |                                                       |     |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-----|
| 別表 1                   |                                                                                   |                            |                                                                                                                              | 別表 1             |                                                                          |                                                       |     |
| 分 科 会                  | 調査審議事項                                                                            | 構 成                        | 備 考                                                                                                                          | 分 科 会            | 調査審議事項                                                                   | 構 成                                                   | 備 考 |
| (廃止)                   |                                                                                   |                            |                                                                                                                              | AASSREC 等<br>分科会 | アジア社会科学学術協<br>議会連盟 (AASSRE<br>C) 及び国際社会科学団<br>体連盟 (IFSSO) へ<br>の対応に関すること | 委員会の委員3名以<br>内並びに委員長が必<br>要と認める会員又は<br>連携会委員15名以<br>内 |     |
| AASSREC ・<br>IFSSO 分科会 | アジア社会科学<br>研究協議会連盟<br>(AASSRE<br>C) 及び国際社<br>会科学団体連盟<br>(IFSSO)<br>への対応に関す<br>ること | 分野別委員会運<br>営要綱において<br>定める。 | 言語・文学委員会・哲学委<br>員会・心理学・教育学委員<br>会・社会学委員会・史学委<br>員会・地域研究委員会・法<br>学委員会・政治学委員会・<br>経済学委員会・経営学委員<br>会合同 AASSREC・IFSSO<br>分科会と兼ねる |                  |                                                                          |                                                       |     |
| (廃止)                   |                                                                                   |                            |                                                                                                                              | PSA分科会           | 太平洋学術協会 (PSA)<br>への対応について                                                | 委員会の委員3名以<br>内並びに委員長が必<br>要と認める会員又は<br>連携会委員10名以<br>内 |     |

|        |                               |                            |                        |  |  |  |  |
|--------|-------------------------------|----------------------------|------------------------|--|--|--|--|
| PSA分科会 | 太平洋学術協会<br>(PSA) への対<br>応について | 分野別委員会連<br>営要綱において<br>定める。 | 農学委員会 PSA 分科会と<br>兼ねる。 |  |  |  |  |
|--------|-------------------------------|----------------------------|------------------------|--|--|--|--|

附 則

この決定は、決定の日から施行する。ただし PSA 分科会の施行については日本学術会議細則（平成20年10月 日本学術会議第154回総  
会決定）の決定の日とする。

(様式)

国際委員会AASSREC・IFSSO分科会の設置について

分科会等名：国際委員会・AASSREC・IFSSO分科会

|   |                                     |                                                      |
|---|-------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 1 | 所属委員会名<br>(複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。) | 国際委員会                                                |
| 2 | 委員の構成                               | 分野別委員会運営要綱において定める                                    |
| 3 | 設置目的                                | アジア社会科学研究協議会連盟(AASSREC)及び国際社会科学団体連盟(IFSSO)に対応するため    |
| 4 | 審議事項                                | アジア社会科学研究協議会連盟(AASSREC)及び国際社会科学団体連盟(IFSSO)への対応に関すること |
| 5 | 設置期間                                | 時限設置<br><div>常設</div>                                |
| 6 | 備考                                  |                                                      |

(様式)

国際委員会 P S A 分科会の設置について

分科会等名：国際委員会 P S A 分科会

|   |                                     |                            |
|---|-------------------------------------|----------------------------|
| 1 | 所属委員会名<br>(複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。) | 国際委員会                      |
| 2 | 委員の構成                               | 分野別委員会運営要綱において定める          |
| 3 | 設置目的                                | 太平洋学術協会 (P S A) に対応するため    |
| 4 | 審議事項                                | 太平洋学術協会 (P S A) への対応に関すること |
| 5 | 設置期間                                | 時限設置<br>常設                 |
| 6 | 備考                                  |                            |

|     |     |
|-----|-----|
| 1 1 |     |
| 幹事会 | 6 4 |

## 提 案

### 日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者      会 長
2. 議 案      日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由      日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答すること  
としたい。

## 記

- 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

法文化学会

幼児教育史学会

日本社会薬学会

自治体学会

近代英語協会

日本情報ディレクトリ学会

日本臓器保存生物医学会

以上

|     |     |
|-----|-----|
| 1 2 |     |
| 幹事会 | 6 4 |

## 提 案

平成20年度代表派遣について（平成20年10～12月分追加分）

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第19条の規定に基づくものである。

<参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣者の選考）

- 第19条 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第7に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。
- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の1か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。



| 番号 | 国際会議等                        | 会 期                   |     | 開催地及び用務地           | 派遣候補者<br>(職名)                                  | 備考                |
|----|------------------------------|-----------------------|-----|--------------------|------------------------------------------------|-------------------|
|    |                              |                       | 計   |                    |                                                |                   |
| 1  | 2008年度海洋研究科学委員会<br>(SCOR) 総会 | 10月20日<br>～<br>10月24日 | 5 日 | ウツズホール<br>～<br>米国  | 田口 哲<br>創価大学工学部環境共生工学科及び環境共<br>生工学専攻<br>特任連携会員 | 地球惑星科学分科会<br>第1区分 |
| 2  | 2008年度海洋研究科学委員会<br>(SCOR) 総会 | 10月20日<br>～<br>10月24日 | 5 日 | ウツズホール<br>～<br>米国  | 池田 元美<br>北海道大学大学院地球環境科学研究院<br>特任連携会員           | 地球惑星科学分科会<br>第1区分 |
| 3  | 世界技術者会議2008                  | 12月2日<br>～<br>12月8日   | 7 日 | ブラジリア<br>～<br>ブラジル | 石井 司夫<br>建設技術研究所<br>特任連携会員                     | WFEO分科会<br>第2区分   |

|     |    |
|-----|----|
| 13  |    |
| 幹事会 | 64 |

## 提 案

### 第3回ウブントゥ RCE 審査委員会への会員の派遣について

- 1 提案者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 ウブントゥ連合の目的の1つである持続可能な開発のための教育を推進するための地域の拠点作り (Regional Centre of Expertise: RCE)に関し、世界各地からの認定申請書を審査するため、第3回ウブントゥ RCE 審査委員会へ別紙依頼のとおり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 村岡 洋一 (第三部会員、国際委員会アジア学術会議分科会副委員長)



UNITED NATIONS  
UNIVERSITY

**UNU-IAS**

Institute of Advanced Studies

1-1-1 Minato Mirai  
Nishi-ku, Yokohama 220-8502  
Japan

Tel: +81-45-221-2300  
Fax: +81-45-221-2302

E-mail: [unu@ias.unu.edu](mailto:unu@ias.unu.edu)  
URL: <http://www.ias.unu.edu>

国際連合大学高等研究所

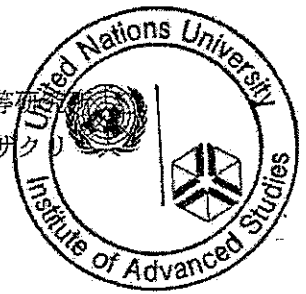
220-8502  
横浜市西区みなとみらい1-1-1

2008年9月5日

日本学術会議

会長 金澤 一郎 様

国際連合大学高等研究所  
所長 A.H. サクリ



第3回ウブントゥ RCE 審査委員会への委員の派遣について(依頼)

平素より、国連大学の業務に関しましては、種々ご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、国連大学高等研究所では、持続可能な開発のための教育 (ESD) を推進するため、世界各地において ESD に関する地域の拠点 (RCE) 作りを進めているところです。国連大学が RCE を認定するに当たり、毎年ウブントゥ RCE 審査委員会を開催し、RCE 認定申請書を審査いただいているところですが、第3回同委員会を下記のとおり開催することとしております。

つきましては、アジア学術会議を代表して、同委員会の委員となられているアジア学術会議事務局長・早稲田大学理工学術院教授の村岡洋一先生を標記会議に派遣いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

なお、誠に恐縮ですが、ウブントゥ委員会の旅費・宿泊費等につきましては、当所で負担の用意がありませんので、貴会議でのご負担方ご配慮いただきたく、併せてお願い申し上げます。

記

1. 開催日時 2008年10月17日(金) 10:00~16:30
2. 開催場所 パリ・UNESCO 本部 会議室

(本件担当：国連大学高等研究所 上席研究員 名執 芳博)

Tel: 045 (221) 2318 E-mail: [natori@ias.unu.edu](mailto:natori@ias.unu.edu)

|     |    |
|-----|----|
| 14  |    |
| 幹事会 | 64 |

## 提 案

### 第15回界面シンポジウム「ナノテクによる水と材料界面の新機能創製」 の開催について

1. 提案者 材料工学委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

## 記

- 1 主 催 材料工学委員会
- 2 共 催 界面科学技術機構
- 3 日 時 平成20年10月29日(水) 10:00～17:30
- 4 場 所 日本学術会議講堂
- 5 議事次第

#### 【開催趣旨】

水と材料の界面の問題をナノテクノロジーの観点から見直し、そこに新たな機能性を見いだすことを主題として企画されたものである。理学・工学の最先端の知見と技術を駆使し、将来の問題解決の可能性を論じ、ブレークスルーを期待したい。

#### 【プログラム】

開 会 橋本和仁(日本学術会議第三部化学委員会委員、東京大学教授)  
 挨 拶 馬越佑吉(日本学術会議第三部会員、(独)物質・材料研究機構理事)(予定)  
 講 演

- (1) 「テクスチャー表面上での濡れと2次元バブルの動力学」  
奥村 剛(お茶の水大学理学部物理学科教授)
- (2) 「撥水表面における水滴転落機構」  
中島 章(東京工業大学工学部准教授)
- (3) 「カーボンナノチューブコーティング材料を用いる超撥水材料」  
Dr. Huan Liu(中国科学院化学研究所、東京大学先端科学技術研究センター研究員)
- (4) 「CVD法による超撥水表面の形成」  
高井 治(名古屋大学理工科学総合研究センター教授)
- (5) 「超親水-超撥水可逆変換材料」  
入江 寛(東京大学工学系研究科講師)

(6)「超滑水材料の設計と作成」

渡辺俊也（東京大学先端科学技術研究センター教授）

閉 会 村瀬 平八（界面科学技術機構代表）

実行委員会

委員長 橋本和仁（東京大学教授）副委員長 村瀬平八（界面科学技術機構代表）

委 員 阿部正彦（東京理科大学教授）高井 治（名古屋大学教授）高原 淳（九州大学教授）、  
中島 章（東京工業大学准教授）、西 敏夫（東北大学教授）

|     |    |
|-----|----|
| 15  |    |
| 幹事会 | 64 |

## 提 案

市民公開シンポジウム「公衆衛生の課題－格差社会・貧困と公衆衛生－」

1. 提案者 基礎医学委員会委員長  
健康・生活科学委員会委員長
2. 議 案 標記市民公開シンポジウムを下記のとおり開催すること

### 記

1. 主 催 日本学術会議 基礎医学委員会・健康・生活科学委員会  
(合同パブリックヘルス科学分科会)
2. 日 時 平成20年11月6日(木) 17:30～19:30
3. 場 所 福岡国際会議場
4. 次 第  
(開催趣旨)

### (プログラム)

座長：實成 文彦（香川大学医学部衛生・公衆衛生学教授）

座長：川上 憲人（東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野教授）

パネリスト：

「基調講演 日本の健康格差・貧困問題－その特徴」

岸 玲子（北海道大学大学院医学研究科社会医学専攻  
予防医学講座公衆衛生学分野教授）

「地域保健医療福祉の課題－特に高齢者の健康格差について－」

近藤 克則 (日本福祉大学社会福祉学部教授)

「労働・産業保健上の課題ー特に非正規雇用の健康影響についてー」

矢野 栄二 (帝京大学医学部衛生学公衆衛生学教授)

「教育・学校保健上の課題ー特に学力の格差についてー」

高橋 浩之 (千葉大学教育学部教授)

「行政の取り組みと課題ー地域保健活動と保健所に求められるものー」

澁谷いづみ (全国保健所長会会長、愛知県半田保健所長)

#### 5. その他

パブリックヘルス科学分科会が11月6日時点で設置されていれば、福岡において分科会を開催予定

|     |    |
|-----|----|
| 16  |    |
| 幹事会 | 64 |

## 提 案

「第16回かがわけん科学体験フェスティバル」の開催について

1. 提案者 毛利 衛、鈴木晶子、本田孔士、上野千鶴子、長谷川壽一、大野竜三、郷 通子、佐藤勝彦、平 朝彦
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

## 記

1. 主 催 日本学術会議、科学体験フェスティバル実行委員会、香川大学、(財)四国産業・技術振興センター、(財)日本科学技術振興財団・科学技術館（予定）
2. 共 催 香川県、(財)かがわ産業支援財団（予定）
3. 後 援 香川県教育委員会、高松市教育委員会、香川県小学校教育研究会理科部会、香川県中学校教育研究会理科部会及び技術・家庭科部会、香川県高等学校教育研究会理化部会、生地部会及び工業部会、四国経済連合会（予定）ほか
4. 協 賛 四国電力株式会社高松支店、電気事業連合会（予定）
5. 日 時 平成20年11月8日(土)～9日(日) 10:00～16:00
6. 会 場 香川大学教育学部体育館・武道場  
(高松市幸町1番地1号)

## 7 次第等

### 開催趣旨

主として香川県内の児童生徒の、科学や技術に対する関心を高めるとともに、様々な自然体験を通して、人間としての成長を図ることを目的に、平成5年度から、毎年、開催している科学体験行事である。

### 開催挨拶

日本学術会議 科学と社会委員会 科学力増進分科会委員 大野 竜三

### 主な実験内容（予定）

- ・いつまでも！とべ！シャボン玉
- ・つくってあそぼう！ゴムロケット
- ・視覚の不思議
- ・フエルト もこもこボール
- ・怪獣ゴムに挑戦！
- ・折り紙建築 他



|     |    |
|-----|----|
| 17  |    |
| 幹事会 | 64 |

## 提 案

### 日本学術会議近畿地区会議シンポジウムの開催について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

## 記

- 1 主 催 日本学術会議近畿地区会議
- 2 共 催 日本学術会議農芸化学分科会、食の安全分科会（予定）
- 3 日 時 平成20年11月22日（土）13:00～17:00
- 4 次 第  
 テーマ「食の安全」（仮題）
  - ①日本の農業と食の安全：祖田 修（日本学術会議連携会員）
  - ②農薬と食の安全：上野民夫（日本学術会議連携会員）
  - ③組み換え作物と食の安全：佐藤文彦（日本学術会議連携会員）
  - ④輸入食品と食の安全：唐木英明（日本学術会議会員）
  - ⑤食品の流通と食の安全：森口文雄（生活協同組合コープこうべ・総合品質保証室統括部長）

※ 会場については、公募により決定

|     |     |
|-----|-----|
| 1 8 |     |
| 幹事会 | 6 4 |

## 提 案

### 日本学術会議中国・四国地区会議公開学術講演会の開催について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

## 記

- 1 主 催 日本学術会議中国・四国地区会議
- 2 共 催 国立大学法人鳥取大学
- 3 後 援 鳥取県、鳥取市
- 4 日 時 平成 20 年 11 月 28 日（金）13:15～17:00（予定）
- 5 場 所 鳥取大学工学研究科棟大講義室（2階）

## 6 次 第 （開催趣旨）

地域における大学は単なる教育研究機関ではなく「地域の知の拠点」でもある。大学からもたらされる様々な要素は、地域社会の発展に有形無形に大きく貢献している。

鳥取大学は長年、県内唯一の大学であったため、地域との関わりが深かったが、法人化後は更なる地域との連携のため、様々な取り組みを企画し実践してきた。

本シンポジウムでは、典型的な地域貢献型大学である鳥取大学と地域との連携事例

を紹介し、今後、わが国において大学が果たすべき教育面、研究面以外の使命について議論し、国の大学行政における提言に結びつけることを目的とする。

テーマ：【地域の知の拠点－鳥取大学の新たな試み－】

(プログラム)

・開会挨拶

13:15～13:25 日本学術会議会長（希望）

13:25～13:30 日本学術会議・中国四国地区会議代表幹事

13:30～13:35 能勢隆之（鳥取大学長）

・第Ⅰ部 講演

基調講演 1

13:35～14:20（45分）

片山善博（慶應義塾大学教授・鳥取大学客員教授・前鳥取県知事）

演題「地域と大学」（仮題）

（地域における大学の意味、欧米型地域大学と日本の地方大学、地域型大学への要望）

・基調講演 2

14:20～15:05（45分）

田邊賢二（鳥取大学農学部教授）

演題「鳥取の梨産地と鳥取大学農学部との関わり」

・休憩 10分

・第Ⅱ部 パネルディスカッション「持続的過疎社会の構築に向けて」

15:15～16:55 1報告15分（②は10分）

①七條喜一郎（（有）内水面雫研究所） 休耕田活用によるホンモロコ養殖の普及

②谷本圭志（鳥取大学工学研究科准教授） 地域における公共交通の確保策

③内田 格（日南町役場企画課長） 産官学連携から見えてくるまちづくり

コーディネーター 日置佳之

パネラー 基調講演者2名、事例報告者3名 合計5名

・閉会挨拶

16:55～17:00 岩崎正美（鳥取大学理事）

|     |    |
|-----|----|
| 19  |    |
| 幹事会 | 64 |

## 提 案

### 公開シンポジウム「現代社会と生死観」の開催について

- 1 提案者 哲学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

## 記

1. 主 催 日本学術会議 哲学委員会いのちとこころを考える分科会  
日本哲学系諸学会連合、日本宗教研究諸学会連合
2. 日 時 平成20年11月29日(土) 13:00～16:30
3. 場 所 日本学術会議講堂
4. 分科会等の開催 同日に委員会および分科会を開催予定
5. 次 第

### 開催趣旨

近代医療は病んだ人の身体部位を治療することに力を注いで来たが、死にゆく人のケアということにほとんど意を用いてこなかった。高齢化社会になるにつれて、いかにしてよりよい死を迎えることができるかに大きな関心が寄せられている。死をうまく受け止めることができないことは、いのちの重さを十分に受け止めることができないこととも関わっている。伝統的な死生観や死生観の歴史について顧みつつ、現代人にふさわしい死生観について考察し、市民の間に豊かな死生観を培うべく、現代の医療や教育等の諸制度がどう取り組んでいけるのかについて、ともに考えていきたい。

司会：島 蘭 進（東京大学教授、日本学術会議連携会員）

### 開会挨拶

#### I 講 演（13:10～14:30）

- 1) 古瀬純司（杏林大学医学部教授）
- 2) 砂山 稔（岩手大学教授、日本学術会議連携会員）
- 3) 西平 直（京都大学教授）
- 4) 広井良典（千葉大学教授、COE「持続可能な福祉社会に向けた公共研究」  
拠点リーダー）

Ⅱ コメント（14：30～15：00）

- 1) 羽入佐和子（お茶の水女子大学教授、日本学術会議連携会員）
- 2) 木村清孝（国際仏教学大学院大学教授、日本学術会議連携会員）

Ⅱ 討論など（15：10～16：20）

閉会あいさつ

※事前申込みは必要ありません。

|     |    |
|-----|----|
| 20  |    |
| 幹事会 | 64 |

## 提 案

シンポジウム「脳とこころの発達」の開催について

1. 提案者 心理学・教育学委員会委員長  
基礎医学委員会委員長  
臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

## 記

1. 主 催 日本学術会議 心理学・教育学委員会 脳と意識分科会  
基礎医学委員会 神経科学分科会  
臨床医学委員会 脳とこころ分科会
2. 日 時 平成20年12月12日(金) 10:00～17:00
3. 場 所 日本学術会議 講堂

#### 4. 次第

[開催趣旨]

昨年度初めての試みとして、脳とこころ分科会、神経科学分科会、脳と意識分科会の3分科会合同で連携シンポジウム(テーマは「高齢社会と脳」)を開催し、一般の方を含め多数の参加者を得て高評であった。そこで、本年度も社会的に関心の高い「脳とこころの発達」をテーマに、連携シンポジウムを企画した。

[プログラム]

- (1) 開会挨拶 (未定)  
(2) 講演  
1) 「自閉症治療に挑む心理学と神経科学」

順天堂大学大学院医学研究科教授 北澤 茂

2) 「乳児の発達脳科学」

東京大学大学院教育学研究科准教授 多賀 巖太郎

3) 「赤ちゃんの心の発達：メンタライジングの視点から」

京都大学大学院文学研究科准教授 板倉 昭二

4) 「自閉症スペクトラムの謎：脳とこころの発達からアプローチする」

国立精神・神経センター 精神保健研究部部長 神尾 陽子

5) 「自閉症スペクトラムと社会：発達精神医学の時代」

昭和大学医学部教授 加藤 進昌

6) 「脳の構築と神経機能の維持に関わる神経新生」

東北大学大学院医学系研究科教授 大隅 典子

(3) 閉会の挨拶 (未定)

5. 分科会の開催

当日、脳と意識分科会、神経科学分科会、脳とこころ分科会を開催予定

|     |    |
|-----|----|
| 21  |    |
| 幹事会 | 64 |

## 提 案

## 国内会議の後援

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

## 記

○後援する

| 名 称 等                                                                                                                               | 申 請 者                       | 審議<br>付託先 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|-----------|
| 第 88 回慶應医学会総会シンポジウムの後援<br>①主催：慶應医学会<br>②期間：平成 20 年 11 月 14 日<br>③場所：慶應義塾大学病院                                                        | 慶應医学会会<br>長                 | 第二部       |
| 氷床変動とグローバルな気候変動：ランベック教授来日記念<br>シンポジウムの後援<br>①主催：日本第四紀学会<br>②期間：平成 20 年 10 月 3 日<br>③場所：東京大学工学部 2 号館 1 階大講義室(213 号室)                 | 日本第四紀学<br>会会長               | 第三部       |
| 日本の科学者技術者展シリーズ第 7 回「関孝和三百年祭記念<br>数学 日本のパイオニアたち」の後援<br>①主催：関孝和三百年祭記念事業実行委員会<br>②期間：平成 20 年 11 月 22 日～平成 21 年 1 月 12 日<br>③場所：国立科学博物館 | 関孝和三百年祭<br>記念事業実行委<br>員会委員長 | 第三部       |
| 第 34 回全国語学教育学会年次国際大会の後援<br>①主催：全国語学教育学会<br>②期間：平成 20 年 10 月 31 日～11 月 3 日<br>③場所：国立オリンピック記念青少年総合センター                                | 全国語学教育<br>学会長               | 第一部       |
| 2008 年度第 2 回日本社会福祉学会フォーラムの後援<br>①主催：日本社会福祉学会<br>②期間：平成 20 年 11 月 22 日<br>③場所：金城学院大学                                                 | 日本社会福祉<br>学会長               | 第一部       |